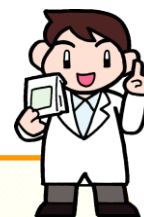









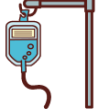
エルロチニブとゲムシタビンの治療をお受けになる方へ



腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。
 エルロチニブとゲムシタビン、分裂増殖が盛んな細胞に作用します。
 正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞(骨髄・消化管等)は、薬の影響を受けやすく副作用として現れてきます。
 以下に、エルロチニブとゲムシタビンによる治療の副作用をご説明しますがこれらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

薬の名前	1～28日目			
エルロチニブ				
薬の名前	1日目	8日目	15日目	16～28日目
ゲムシタビン				お休み

症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	15～30分	生理食塩水50ml グラニセトロン1A	グラニセトロン; 吐き気を抑える。
	30分	5%ブドウ糖100ml ゲムシタビン	ゲムシタビン; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	15分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認

◎起こりやすい副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。

点滴治療の場合には点滴終了後3日程度とされています

症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度とされています。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいとされています。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。菌茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●皮疹

首筋や手、足、背中などの皮膚が赤くなったり、かゆくなったりすることがあります。
刺激の少ない木綿の肌着を着用するなど、皮膚への刺激を避けましょう。
治療の後、数日以内に全身にかゆみや痛みを伴う場合は相談してください。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。

担当薬剤師